委員会の審査から　総括質疑


小林 秀司（こばやし しゅうじ） 委員長


市川 克宏（いちかわ かつひろ） 副委員長

７年度決算議案は、決算等審査特別委員会（小林秀司委員長、市川克宏副委員長）に付託され、全体会議及び分科会で慎重に審査しました。ここでは、９月25日に行った全体会議での総括質疑の主な質疑と答弁の要旨について掲載しています。

録画配信はこちら⇐

男女共同参画社会の実現のため、困難な問題を抱える女性への支援等を行った。

ＤＶ被害者支援の充実を

問　**ＤＶ被害者支援の会議と、要保護児童支援の会議を連携して開催するようになってから２年が経過したが、連携した開催についての評価を聞きたい。**

答　この２つの会議は共有する情報が類似しているため、連携して開催することとした。単独開催より参加機関が多岐にわたることから、幅広いネットワークが構築できていると評価している。

問　**ＤＶ被害者支援と要保護児童支援では、支援の主体となる関係機関等が異なる部分があることを踏まえ、支援の充実を図ってもらいたいがどうか。**

答　より多くの機関と連携する会議の機会を活用し、引き続き、ＤＶ被害者支援を充実していく。

ＤＸ推進計画に基づき、市民の利便性拡大と業務の効率化を図った。

７年度までのＤＸ推進計画の取り組みは

問　**７年度に終了したＤＸ推進計画に基づく取り組みの成果は。**

答　各所管の業務課題に対応するとともに、効果的な取り組みを庁内で共有し、他所管への展開を進めてきた。その結果、キャッシュレス決済や、オンライン手続きなどの活用が広がるとともに、職員による生成ＡＩ※1の活用が進み、業務効率化と市民サービスの向上を両立する取り組みを全庁的に展開することができた。

問　**マイナンバーカードの利活用について、どのような取り組みが進んだのか。**

答　各種手続きのオンライン申請での活用など、サービス拡充を進めており、市民の利便性向上や、手続きのデジタル化が着実に進んでいると認識している。



ＤＸ推進計画は、８年度から新たな計画へ

校内別室指導支援員を配置し、児童・生徒の状況に応じた支援を行った。

児童・生徒の登校支援に向けた取り組みは

問　**７年度は、市内20校に校内別室指導支援員※2を配置したとのことだが、その成果について聞きたい。**

答　教室に入ることに不安を抱えていた児童・生徒が、支援員と継続的にかかわり、信頼関係を築くことで、給食や、行事に向けての学級活動に参加できるようになったなどの成果があった。

問　**校内別室指導をきっかけに、児童・生徒の学校に行きたいという気持ちにつながった好事例は、他の学校でも取り組めるように情報共有することが重要と考える。全市立学校に、好事例を広げる取り組みは。**

答　校長会や、全市立学校の登校支援担当の教員が参加する研修会において、校内別室指導の成果や、実践内容を定期的に共有している。今後も、培った実践内容や知見を全市立学校で共有し、校内別室指導の充実を図るとともに、児童・生徒一人ひとりの状況に寄り添った支援体制の強化に努めていく。

支援金支給のほか、相談員派遣等を行い、中小企業者等の負担軽減等を図った。

厳しい経営環境にある市内事業者への支援は

問　**物価高騰が続く中、７年度は、どのように中小企業者等への支援を行ったのか。**

答　物価高騰やエネルギー価格の影響を受けている市内中小企業者等への支援金支給を２回にわたり実施した。小規模事業者でも対象になりやすい制度とした上で、営業利益が赤字の事業者等を対象とし、より厳しい経営環境の事業者への支援を行った。また、相談員派遣による伴走支援を実施し、ＤＸ推進等を通じた経営改善への支援を行った。


市内中小企業者等の経営改善への支援も実施

※1学習したデータをもとに、テキスト・画像・動画・音声などの多様な形式の情報を新たに生成する人工知能（ＡＩ）の一種
※2学級で過ごすことは難しいが、校内の別室であれば登校できる児童・生徒に対して、別室で学習指導や相談対応等を行う支援員